

2026年5月米雇用統計

<米5月雇用統計概要>

・米5月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比で+172千人と市場予想の+88千人を上回る伸びを示した。過去2ヵ月分については、3月分は+185千人から+214千人へ、4月分は+115千人から+179千人へ上方修正され、直近3ヵ月の伸びとしては過去2年で最大を記録した。

・項目別にみると、データセンター建設需要の拡大による建設業の伸びが追い風となったと見られるほか、サッカーW杯の開催に向けた飲食店の求人増加などによりレジャー・宿泊部門の雇用が+70千人と堅調な伸びを示すなど、幅広い業種で雇用が増加した。

・失業率については、4.3%と前月から横ばいとなり、引き続き低水準を維持した。

・平均時給については、前月比+0.3%、前年比+3.4%と市場予想と一致したが、前年比の伸び率は2021年以來の低水準に並んだ。

・総じてみると、非農業部門雇用者数は3ヵ月連続で前月から+100千人超増加し失業率も低水準で推移するなど、米労働市場の底堅さが示される結果となった。一方で、平均時給は伸びが鈍化するなど、加熱した状況には至っていないと推察される。

<米5月雇用統計結果>

主要項目	4月分	5月分	市場予想(5月分)
非農業部門雇用者数(千人)	179(修正前115)	172	88
失業率(%)	4.3	4.3	4.3
労働参加率(%)	61.8	61.8	61.8
平均時給(前月比)(%)	0.2	0.3	0.3
平均時給(前年比)(%)	3.6	3.4	3.4

【米国雇用統計について】

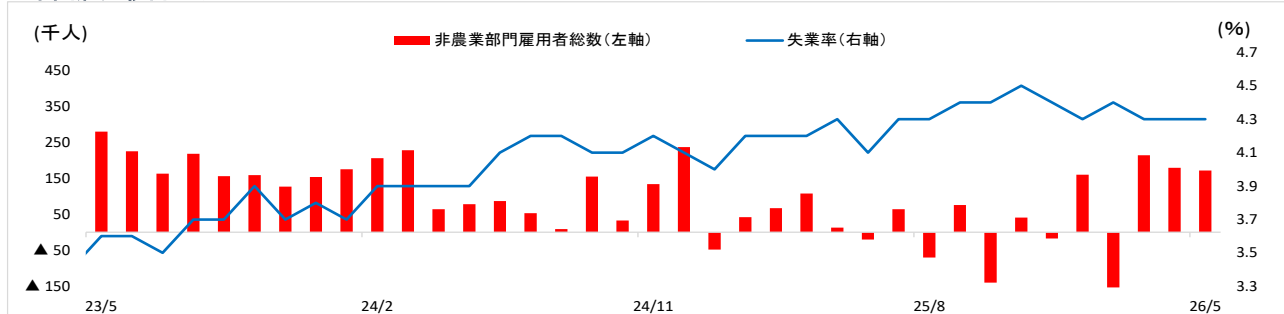
●米国雇用統計とは、米国雇用の情勢(失業者数や就業者数など)を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表される。指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。

●FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

<項目別の雇用者数増加幅(単位:千人)>

項目	前回結果	今回結果	項目	前回結果	今回結果
鉱業・木材伐採	5	4	専門・事業サービス	22	6
建設	9	17	教育・ヘルスケア	54	40
製造	0	7	レジャー・宿泊	30	70
貿易・運輸・公益事業	62	▲3	政府	2	52
情報	▲8	▲2	その他サービス	9	3
金融	▲6	▲22			

<米国雇用統計チャート>



<市場動向>

	6月4日 終値	6月5日 終値	前日比
ドル/円相場(円)	160.02	160.29	+0.27
ダウ平均株価(ドル)	51,561.93	50,866.78	▲695.15
S&P500(ポイント)	7,584.31	7,383.74	▲200.57
NASDAQ総合指数(ポイント)	26,830.96	25,709.43	▲1,121.53
米2年金利(%)	4.043	4.147	+0.10
米国長期金利(%)	4.473	4.530	+0.06

<相場動向>

米国金利

米国金利は、米雇用統計において労働市場の底堅さが確認されたことで、年内利上げを織り込む動きから売りが広がる展開となり、2年金利は前日比+0.10%の4.147%、長期金利は前日比+0.06%の4.530%まで上昇した。

ドル/円相場

ドル/円相場は、米雇用統計の結果を受けて米国金利が上昇するなかでドル買い円売りが優勢となり、一時160円34銭まで上昇するなど、4月30日に実施された為替介入後の安値を更新した。

米国株

米国株式相場は、主要3指数で売り優勢の展開となった。米雇用統計で労働市場の底堅さが示されたことで、FRBが年内に利上げに踏み切るとの見方が一段と強まるなかで、米国金利の上昇が相場の重しとなった。

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。